

ビバハウス便り No.105 ビバハウスに15度目の春到来

2015年4月30日 ビバハウス 責任者 安達 俊子

ビバハウス便りNO. 104でお伝えした安達尚男ですが、入院生活もはや4カ月に入ります。1日3回のリハビリプランに全力投球し、担当して下さっている指導者の方々もびっくりするような機能回復状況にあるという事を、喜びを持ってご報告させていただきます。

ビバへ帰ってからも情報発信の役割を果たしたいと、指と頭のリハビリでパソコンを使い、次の様な特別号を完成させました。

ビバハウス便り 特別号外

ビバハウス 安達尚男

2015年4月10日

生活困窮者支援事業に基づく活動開始される！！

～（4月1日より）小樽市・後志全域～

ビバハウスと提携中のワーカーズコープが小樽市・後志振興局から業務委託を受ける。

近年社会経済環境の悪化から失業や病気、介護などをきっかけに生活困窮に陥る方々が増大している。

増大する生活困窮者に対して、「生活保護」だけでなくそこに至る前の段階から支援を行うことが求められてきた。この4月1日から施行された「生活困窮者自立支援法」に基づく実際の施策が小樽市、後志全域でビバハウスも関わって開始されます。

小樽市の事例については、いち早く小樽市広報（4月号）に詳しく取り上げられていますので市民の方は是非ご覧いただきたいと思います。

後志については、余市町入舟町の有限会社ビバの建物を使い本部とします。ビバは特に就労支援の面で頑張ります。この4月から共同で仕事する札幌のNPO風のがっこう農民塾（長谷川豊代表・元酪農学園大学教授）とモンガク農場でお年寄りやビバの若者が共同で農作業をしますので、それに参加していただけます。

後志の全町村で、相談会を開きますのでご相談のある方はご遠慮なくおいで下さい。費用は掛かりません。この事業に対してワーカーズコープは、制度としてはいまだ未完成なものなので、市民が立ち上がり、より完成されたものにする必要があると訴えています。これまで数年にわたり同組織と共同関係を築いてきたビバハウスとしても同じ考えですので、それぞれの得意分野で力を合わせたいと願っています。

小樽市では、広報4月号に市民に対する相談コーナー「たるさぼ」を、新規に市役所近くに開設し、小樽市、小樽市社会福祉協議会、ワーカーズコープの3者で任務分担し、担うことを公表しています。全国の各自治体がこれに劣らない取り組みをすることが期待されています。

ペンを置き、窓から外に目をやるとこのところの暖かさから今年もレンギョの花が満開！黄金色の花をつけた枝が風に揺れています。

そして、若者たちにも春の動きが。ビバの生命線、農作業のグループワークが開始された。まずは、3年前から生ごみを利用した肥料を作成し、今回使用する畑に撒き、スタッフとメンバーで土づくりからスタート！！今年は福祉村のご厚意もあり、耕運機を借りることができ、初めての耕運機を使い、戸惑いながらも畑を耕しました。

自分に自信が持てないO君（31歳）も何度もやるうちに感覚を掴み、マスターした。彼の顔には確かな自信がにじんでいた。

土おこしが終わり、現在、ニラと長ネギの定植を終え、これから夏に向けて自給自足のたくさんの野菜をグループワークで植えていく予定です。